## 松沢哲郎のこと(10) 小嶋祥三

杉山さんらのMLにわたしも入っているが、フィールド系の研究者が多いようだ。このMLは松沢が引き起こした不祥事で霊長研が解体されたことを考えるためのものと思っていた。最近の議論は別のテーマになっている感じだ。私の考えは、このHPに書いてきた。今回、わたしが強い違和感を持った点を述べる。それは、杉山さんたちはこれまで松沢の個人攻撃は避けてきたらしいこと。無論、個人攻撃の程度によるが、松沢を批判しないで、今回の不祥事の議論が可能とは思えない。松沢は研究費の使用に関して不正を行った(京大だけでなく、会計検査院もそれを認定している)。これは当然、彼の学術研究そのものに疑念を持たせる行為だ。研究者として失格でしょう。事実、チンパンジーのじゃんけんの研究は、その内容はともかく、特に、それに基づいて松沢が述べた議論に虚偽といってもいいものが含まれているように思う。わたしはHPに、霊長研創立50周年の時に感じた、研究所の将来についての不安を書いた。その不安を増幅させたのがじゃんけんの研究だった。これもHPに書いたが、周囲の研究者はなぜこの論文に疑義を唱えないのか不思議だった。そして、霊長類研究、霊長研の将来に対する不安がさらに強まり、それが現実のものとなってしまった。

わたしは杉山さんらが松沢に対する個人攻撃を避けてきたのなら、霊長研のフィールド研究はそれだけ松沢(+山極?)の強い影響下にあったのかと推測した。わたしには野生動物研究センターのために、ほとんど見返りもなく、霊長研の野外施設を差し出すことなど理解できなかった。これは今、心の片隅に沸いた妄想だが、今西が創った霊長類研究、霊長研を発展させたのは自分だ、その自分を切るなら今の霊長研や霊長類研究など滅びて当然だ、と松沢は思いながらあの文章を書いたのかもしれない。松沢のようなタイプの教員に批判的なのが、霊長研の伝統と思っていたが、変わってしまっていたようだ。とても残念です。

この文章が、天に向かって唾を吐く、面があることは承知している。